
羞恥心が芽生えたら

俣尾根 翔子

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

羞恥心が芽生えたら

【Nコード】

N6227P

【作者名】

俣尾根 翔子

【あらすじ】

僕の名前は遠藤睦美、現在高校一年生。小学五年生の夏の朝、ある日突然、僕がおねしょをしたのを近所に住む倫子お姉さんに見られてから悪夢が始まった。

学生時代編 1（前書き）

この作品は残酷な描写ありませんが、おねしょやオムツなど羞恥心など、性的嗜好としての寝小便がテーマです。興味のない方や不快と思われた方は御遠慮下さい。

学生時代編 1

自己紹介をします。僕の名前は遠藤睦美と言います。特技は水泳で特に背泳が得意で、得意科目は有りませんが、しいて言えば美術です。勉強は余り好きではないのだ。自己紹介を終え教室を一回り見て、小学校、中学校が男女含めて同じ学校や僕の過去を知って奴が居ない事を確認するとホツとした。が、安心するのは未だ早いのだ。恥ずかしい事に過去では無く、今も密かに厄介な癖で悩んでいるのだ。絶対に誰にも知られずに、高校生活の三年間を無事に過ごさなくてはならないのだ。そう、その秘密と言うのは「夜尿症」なのだ。僕がこの高校の受験を決意したのには訳があるのだ。

父が転勤で母と僕が引越の話をしたのだ。当時の僕は。反抗期で親には逆らってばかりいたのに、やけに素直なので、不思議がつていたのだが。両親も知らない恥ずかしい「夜尿症」の事でクラスメイトから冷やかされていて、高校三年間も辛い思いはしたくない、この土地から逃げたかったから好都合だった。

「ああ〜スッキリした〜」と思った瞬間にぼんやりと薄暗い部屋に、冷たい布団の感触に僕は「はっ」と目が覚めても、後の祭りだった。布団には立派な世界地図が出来ている。トイレに行く夢を見たら最後、夢の中でオシッコが必ずしたくなるから不思議だ。僕が未だに時折おねしょをする事を誰も知らない。小学五年生の夏の朝までは。だが、近所に住む倫子お姉さんだけが、おねしょをする事を知っている。

両親の仕事が忙しく、母が夏休みの間だけ、お姉さんに僕の勉強見てくれるように頼んでいたのだ。そんな事とは知らずに、昨夜、寝る前にスイカを食べ過ぎた事を後悔した。頻繁におねしょをしていたのも、低学年の頃で、今じゃ滅多にしないから油断したのだ。久しぶりの失敗である。何もこんな日に限って、

「睦美君は未だおねしょをするのね」「いいえ、昨日は西瓜を食べ過ぎて」僕は涙目で「本当に今は滅多にしないです」分かったから、もう泣かないの、男の子でしょ。明日からは寝る前に西瓜やジュースを飲食したら駄目よ。お姉さんは笑みを浮かべて睦美にシャワーを浴びてらしゃい、その間にお洗濯しておくから、と言って世界地図の布団とパジャマの処理をしてくれた。僕はおねしょをする事がこんなに恥ずかしなんて思ってた事が無かったし、寝ている時に僕の許可なくオシッコが勝手に出る方が悪いと思っていた。だが、家族を含め自分以外の人に知られると、とてつもない羞恥心が芽生えたのだ。僕は浴室で泣きじゃくり目を赤く腫らした。浴室から出ると着替えと食事の用意が出来ていた。黙っている僕に気にしなくてもいいのよ。運悪くおねしょをしちゃっただけだから。でも、今晚からは、寝る前に飲食したら駄目よ。この日は二時間ほど勉強して、帰り際に。もし今度おねしょをしたら、オムツをして寝るのよ。それともお姉さんがオムツを充ててあげようかしら。倫子は意味深な笑みで睦美に語ったが、睦美には全く見えてなかった。

この事で後に、睦美はどん底に落ちる事を夢にも思わなかった。

学生時代編 1（後書き）

この小説が処女作品ですが一部の内容の性別や名前など若干異なりますが、辞実際にあった事を元にした作品です。

俣尾根 翔子

おねしよは恥ずかしい（前書き）

ある日突然、僕がおねしよをしたのを近所に住む倫子お姉さんに見られてから悪夢が始まった。物語。

睦美のおねしよが良くなるどころか倫子の巧みな罠にはまってしまふ。現。小学六年生の修学旅行は

おねしよは恥ずかしい

夕方に母が帰宅して、早速僕に問いかけてきた。睦美には言わなかったけど、倫子お姉さん来てくれた？うん、来たよ。突然に來たからビックリしたじゃないか。睦美、御免ね。でも、先に言ったら断ると思って、失礼な事しなかったでしょうね。勉強を教えてもらったただだよ。睦美が毎日一人だと夏休みだからって夜遅くまでダラダラと起きていたり、朝、何時までも寝ていたり、宿題を後になつて急に慌てない様にとか、暑いからって寝る前にガブガブ麦茶、ジュースを飲み過ぎてお腹壊して無いとか、普段は忙しくって睦美にかまつてあげられないけど、それでも、色々心配しているのよ。分かったから、大丈夫だから心配しないで、それより、倫子お姉さん何か言つてなかった？ええ、今日は未だお話をしてないけど、御礼も言わなくちゃいけないし。どうかしたの？何もないけど、今日は倫子お姉さん帰りが遅くなるって言っていたよ。余り氣を使わないうでいいからって。倫子お姉さんも睦美と同じ一人っ子だから以前、睦美みたいな弟が欲しかったって、それに、倫子お姉さんは将来学校の先生になるのが夢って聞いた事があつたわ。だから、睦美の面倒を引き受けてくれたのね。安心した、睦美の事を頼んで本当によかった。じゃあ、今朝、おねしよをして後始末をしてくれた事も内緒にしてくれるな、睦美は勝手な解釈をして、そつと胸を下ろした。ええ、睦美何か言つた？おねしよ？？別に何にも言つてないよ、小学五年生にもなつてまさかね。あらそう、聞き間違ひね、と言つて茶の間の方へ行つた。危なかつた。

その日の夜、無性に暑苦しく、真夜中に目を覚ました。何だか喉がカラカラだ。又、おねしよをしたら恥ずかしい、でも、倫子お姉さんも運悪くおねしよをしただけって言つていたし。大丈夫、昨日は運が悪かつたのだ。おねしよをするはずが無い、僕は、もう小学五年生なのだぞ。それでも、僕はおねしよを気にしながらコップに二

杯の麦茶を飲んで念の為トイレでオシッコを出して、一滴も残らず絞って、眠りについた。　　えい、僕は、もう小学五年生なのだぞ、おねしよをするはずが無い、麦茶でもおねしよを気にしないで何杯飲んでも平気だ。午前七時半、今日はちよつと早いから睦美君は未だ寝ているかな。おはよう、声をかけるが一向に目を覚ます様子が無い。うふふ、さては昨夜も夜更かししたなあ。

しょうがない睦美君ね。小母さんが、心配していた通りね。ほら朝食の用意が出来たわよ、睦美君。起きなさい。部屋の扉を瞬間に、もしや、布団を少し捲った瞬間に確信した。今朝と同じオシッコの臭いがした。ああゝ又、やったなゝ。困った睦美君ね。ほら、起きなさい、睦美起きろ、爆睡している。怒った口調で全く起きない睦美の布団を全部捲った瞬間に見事な世界地図の布団だ。睦美は「はっ」とようやく目が覚めた。又、おねしよをしたわね、約束したよね、今度おねしよをしたら、オムツをして寝るって。オムツをして寝るのよ。いいわね、睦美君が未だにおねしよをする事を小母さんは知っているの？知らないよ　小学五年生にもなって治ってないなんて。そうよね、まさか、小学五年生にもなっておねしよをするなんてね。本当に恥ずかしい事よ。明日からは、必ず寝る前にはオムツを充てるのよ。そつ、そんな　オムツなんてカッコ悪いよ、まるで赤ちゃんじゃないか、僕は、小学五年生だ。赤ちゃんじゃない別にいいのよ、お姉さんは、この見事な世界地図の布団を世間の皆さんに見てもらいましょうか？立派な世界地図よ。

駄目　許して下さい。今夜から寝る前に必ずオムツをして寝ます。そう、分かったわ、又しても倫子は意味深な笑みで睦美

に命令した。何を隠そう倫子自身も現役の「夜尿症」で毎日オムツを充てて寝ているのだ。しかも、毎晩、欠かさずにオムツが手放せないのだ。だから、睦美の部屋の扉を開けた瞬間に普段倫子が嗅いでいる臭いと同じで睦美もきつと常習だと悟ったのだ。そして、睦美を完全な「夜尿症」にして毎晩、欠かさずにオムツが手放せない様に仕込もうと計画したのだ。倫子は睦美に悟られない様に、今度

は優しく睦美にシャワーを浴びてらしゃい、大丈夫、お布団は外から分らない様に干してあげるから、現役の夜尿症の倫子には外から分らない様に干すのは容易かった。わかった、シャワーを浴びてくるから。浴室から出てきた睦美に意地悪く小母さんから、勉強を見てほしいと頼まれたただけなのよ、これじゃ、赤ちゃんのお世話ね。こんなやり取りが毎日続き、気がつけば、夏休みも残り、一週間だ。

いまじゃ睦美を完全な「夜尿症」になっていた。倫子の企みとは知らないで、昼間に巧みな話術で毎日、おねしよを意識させオムツと連呼して、プレシャーをかけ、特性ジューズと言って少し、おねしよをする秘薬を混ぜ飲ませたのだ。結果、見事成功した。「おねしよ」が全く治らない。以前より恥ずかしいと思う睦美だが、更に恥ずかしい最悪な行事があった。小学六年生になりそれは、7月上旬の修学旅行である。睦美は倫子に相談した。いや、倫子以外に相談が出来なかった。上級生になっても治らない。修学旅行で、おねしよをして友達にバレたら恥ずかしい、紙おむつをして寝ているのが友達にバレたら恥ずかしい。学校にも行けないです。倫子も自身の記憶が鮮明に蘇る、現役の夜尿症で尚更である。倫子の夜尿症は年齢を重ねる度に完治が困難になっていた。それこそ

大学病院の泌尿器科で「夜尿症」専門の受診を考えたが、二十歳の「夜尿症」なんて私だけ、わざわざ 恥を曝け出すのが耐えられないし、電話で病院に問い合わせても小児科で子供ばかり。漢方薬にも小児と倫子は完治を諦めたのだ。倫子の「夜尿症」は初潮を過ぎ生理が安定しない日が多くで苛立っている頃、発症したのだ。睦美君はどうなの修学旅行行きたいの？

うん、そりゃ行きたいよ。両親も初めてのお泊りねって、いいわね、懐かしいな。って、変に修学旅行に行かなかったら、怪しまれるわね。いいわ、お姉さんがいい方法を考えとくから。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6227p/>

羞恥心が芽生えたら

2010年12月31日08時13分発行